

令和 6 年度 学校評価シート

学校名：田辺工業高等学校

校長名：畠 守 彦

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

【目指す学校像】●基礎基本を鍛え、実践する活力あふれる学校 ●知・徳・体の調和のとれた人物を育む学校 ●秩序があり、愛情と信頼に満ち、多様な個性と能力を伸ばせる学校 ●社会的、職業的に自立し、変革を創りだすことのできる人物を育む学校

【育てたい生徒像】○自主・自立の精神と高い志をもち、自他の人権を尊び 礼節と品格を備え五心を実践できる生徒 ○自他の人権を尊び、礼節と品性を備え、五心を実践できる生徒 ○文武両道に励み、知・徳・体の調和のとれた生徒 ○郷土・和歌山への愛着と誇りを持ち、地域産業の発展に貢献できる生徒

学校評価の公表方法

ホームページに掲載する

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（ 2月14日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	基礎学力の定着と学習面や生徒指導面の課題の改善	B	基礎学力の定着と学習支援の充実	欠点保持減少 授業中の生徒指導の減少	B	朝の学習について、出席率も良好である。	・基本的な学習習慣や学ぶ姿勢を身につけるための組織的な取り組みが増えてきた。 ・自立活動や人権に関する研修を行い、理解を深めた。 ・進路について自分自身の問題として考えられるよう関わっていく。
			現状に応じた生徒指導と生徒支援の充実と改善	生徒指導の改善 生徒支援の改善 ユニバーサルデザイン授業の実践	B	個々の生徒に対応した行動ができるよう情報共有を計った。	
			ICT活用とネットマナー指導	ICT活用の向上 ネットトラブル防止講演会の開催	A	全学年で情報モラル教育を実施し、ネットトラブル防止に向けて学ぶ機会となった。	
2	「わかやま産業を支える人づくりプロジェクト」の推進と人材育成の体制や学ぶ環境の整備	B	企業や地域の技術者を招聘しての生徒への技術教授を推進	外部講師の活用 地域との共同研究開発	B	地元企業からの講師を招き出前授業を行った。	・産業界で活躍できる人材を育成するためには、教職員が産業や企業について理解し、深く学ぶ機会が必要である。 ・将来を見越した就職、進学先の開拓を行う必要がある。 ・資格取得やものづくりにおいては外部人材の活用を積極的に取り入れていく。
			資格取得の向上やコンテストへの積極的な参加	カリキュラムリレーの実現 資格検定取得率の向上	B	コンテストへの参加を引き続き啓発していきたい。	
			企業説明会への参加やインターンシップの実施	企業説明会への全員参加 企業インターンシップの実現	A	ガイダンスを重ね、進路を意識させることができた。	
3	生徒の自信や自己肯定感を育む事を目的とした積極的な取り組みへの挑戦	B	学校行事の主体的な取り組み	文化祭・体育祭・球技大会・学校説明会の運営	A	積極的・主体的な取組が増えてきた。	・教職員が良き伴走者として自立した活動を今後も支えて行きたい。 ・地域と連携することで生徒の自己肯定感、有用感を高めることができた。
			生徒会による行事の立案と運営	既存する行事の改善・立案・企画・運営	A	生徒会による積極的な活動が増えた。	
			ボランティアなどの外部機関と連携した企画への積極的な参加	マナーアップキャンペーン・高校生レポーターへの参加	B	ボランティア活動への積極的な参加について促した。	
4	産業界で活躍できるスペシャリストの育成とそれを支える教職員のスキルアップ	B	企業との連携による先進技術の習得と課題研究での実践	カリキュラムリレーをもとに外部と関わり、学ぶ機会を創造	B	課題研究での外部連携は実践できた。	・技術を身に付け、社会へ送り出す工業教育の実現を目指し、今後も学び続ける教職員集団であり続けることが求められている。 ・教職員の技術指導における更なるスキルアップが必要である。
			教職員の全工協講習会講習等の研修機会の活用	新技術の取得と授業改善 授業を通した生徒への還元	A	各科の教員が外部講習や研修会に参加する機会が増えた。	
			現職教育を開催し、専門知識・技術の共有とスキルアップ	現職教育や校内研修の開催 資格検定への挑戦	B	資格取得について目標を設定し取り組む必要性がある。	

学校関係者評価(1月29日実施)

今年度の学校運営協議会は4回実施（6月・9月・11月・1月）した。1回目はきのくにコミュニティスクール についての説明と学校運営の基本方針及びスクールポリシーについての承認を行い、今後の活動予定等を共有した。2回目は、学校の現状報告と公開授業、施設見学を行った。3回目は、学校行事（文化祭舞台発表）を見学していただいた。その後学校からの報告を行い、学校評価について具体的な内容を詰めた。4回目、令和6年度の学校評価 について委員の皆様アンケートを実施した。結果分析を行い令和6年度のまとめを行った。 成果と課題として、「進路実現にむけての企業開拓、大学開拓の必要性がある。」「就職に拘らず進路実現に向けて1学年から準備していくが重要である。」「人が集まり対話することは子ども達や地域社会にとって良い刺激となるため、引き続き地域の活動や小・中学校等との交流を深めてもらいたい。」の3点について、今後の教育活動に積極的に取り入れるよう努めていきたい。アンケートの結果を次に生かしていけるよう、問題点を見つけ改善していきたい。

今年度、授業アンケートにおいて評価項目を意識した内容にしたことにより、項目によっては「十分である」「ほぼ十分である」といった前向きな回答が60%を超える部分もいくつかあった。進捗度Aとしている所はアンケート結果により、生徒、学校関係者、教員のいずれかで80%を超えている項目である。

